

お客様の声

建設・防災分野

製造分野

情報・通信分野

意思決定・合意形成分野

## APS 型生産管理システム ADAP 導入事例



ニチバン株式会社 様



「“製造現場自らが生産計画作成に参画する” “在庫を減らしても欠品しにくい生産管理” を目指し、ADAP を導入しました。ADAP 導入は、製造部門のみならず全社的な風土改革のきっかけにもなりました」

ニチバン株式会社

写真上：事業統括本部（左から）富田氏、工藤氏、小西氏、本部長 鈴木氏、シニアマネージャー 田口氏

※写真手前はセロテープアートの「セロたま .3」（瀬畑亮氏作）

写真下：埼玉工場（左から）柿沼氏、マネージャー 小峰氏、工場長 田中氏、高橋氏、関根氏

セロテープ®（登録商標）でおなじみのニチバン株式会社（本社東京）では、国内3工場の生産管理システムにADAP(エイダップ)を導入した。本社事業統括本部および最初の導入先である同社埼玉工場の皆さんに、ADAP選定の理由、導入において困難だった点、導入して変わったことなどを伺った。

### ニチバン株式会社の紹介

#### ニチバン株式会社についてご紹介ください

ニチバン株式会社（以下ニチバン）は、独自の粘着・接着技術をベースに、医療・ヘルスケア、オフィス・ホーム、産業向け等、多種多様な製品づくりを行っている会社です。

セロテープ®はほとんどが植物由来の原材料でできており、自然に還る環境にやさしい製品です。その他にも様々な環境配慮製品の提供や製造上の高度な環境配慮を行い、環境に貢献する企業を目指しています。

### ADAP 導入の背景

－ 効率的生産と欠品なき在庫削減を目指して －

#### 導入前の課題についてお聞かせください

国内3工場（埼玉、安城、大阪）が抱える課題解決のためには、業務プロセスを含めたシステム刷新の必要がありました。そこで、効

率的生産と欠品を起こさない在庫削減を目指しスタートしました。

生産管理システムはこれまでも各工場に導入されていましたが、計画管理機能に関してはマスターデータ(※)もあまりメンテナンスされておらず、ほとんど使われていませんでした。生産計画は総務管理課の担当者が、エクセルを独自に育てたものを駆使して立案していて、担当者本人以外にはわからないくらいに個別化していました。在庫削減と欠品回避を両立するために、販売のばらつきを考慮して最大販売予測を行って生産管理につなげられないか試行錯誤し、社内開発した「生産依頼システム」を大幅に改造して月次生産量を計算できるようにしたのですが、「予め生産の日程計画を決めるなんてできない」と、工場にはなかなか受け容れられませんでした。加えて、季節的な需要変動もあり、繁忙期のためのつくりだめへの対応も課題でした。

※マスターデータ(マスター)

企業が基幹業務で利用する情報システムの多くは「マスターデータ(マスター)」と呼ばれる基礎情報をベースにデータを管理している。マスターの種類は多岐に亘り、「商品マスター」や「部品マスター」、または顧客・仕入れ先に関する「取引先マスター」など、企業内の情報を管理し、活用する際の重要な基盤である。

我々が目指す計画管理が  
実現できるのは ADAP だけだった

#### システム選定はどのようにされましたか

生産管理の手法や、生産管理システムの調査を行う中、APS（\*Advanced Planning and Scheduling 先進的計画スケジューリン

他のAPS系の計画システムが分単位で緻密に計画を組んで行く仕掛けであったのに対し、ADAPの日次単位で計画して日の中の順番は現場に任せるといったコンセプトの“ゆるさ”が弊社には合っているような気がしました。また、ADAPだけが月次の販売見込から生産オーダーを生成する機能を持ち、繁忙期のための前倒し生産についても、18ヶ月分でもほとんど問題なく実行することできるという自動計画のロジックの軽さも決め手となり、ADAPを選定しました。

部品構成表と作業手順を用いて、スケジューリングを行い、納期回答するとともに、設備の仕様日程と部品の手配をおこなう活動。

※記載されている製品名および会社名は各社の商標または登録商標です。